北九州市立黒崎文化ホール及び北九州市立八幡西図書館
指定管理者検討会　会議録

１　開催日時　　令和８年１０月２９日（木）１５：３０～１７：１５

２　場　　所　　北九州市役所本庁舎　１５Ｃ会議室

３　出 席 者　　（検討会構成員）　浅羽構成員、井上構成員、神尾構成員、
森構成員、和田構成員
（事務局）都市ブランド創造局文化企画課長、施設係長
教育委員会中央図書館運営企画課長、庶務係長
奉仕課長、子ども図書館企画係長

４　会議内容

〇当日の議事次第等について、事務局より説明。
〇検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
〇構成員の互選により、座長を選出
〇応募団体（黒崎文化みらいまちづくり共同事業体）から提案概要に関してプレゼンテーション
〇応募団体に対して、提案概要に関してヒアリング

（構成員）　研修をたくさんしているようだが、図書館とホールとで別々の研修をしているのか。同じような研修を一緒にしているのか。

（応募団体）　どうしてもホールと図書館とでは専門性が違うため、基本的にはホールはホールの研修、図書館は図書館の研修を行っている。その中で、避難訓練であるとか、防犯であるとか、そういった共通のもので一緒にできるところは一緒に研修を受講、あるいは、訓練は一緒にということはある。

（構成員）　これまで継続しているということで安心感がある反面、新鮮味がなかったり、新しいことへのチャレンジがないのではないかという心配があるが、これまでと少し違うことや、より改善する具体的な中身というのは何かあるか。

（応募団体）　ホールにおいては、黒崎文化ホールならではの若者向けの興行や地域を巻き込んだイベントなどに取り組みたい。
図書館については、少人数読書サロン、それが発展して読書人クラブを最近始めており、良いものは随時進めていく。この１５年間の運営の中で、最初の提案になかった事業をほぼ毎年新たに行っている。また、施設と施設であったり、人とのつながりを重視しており、その中で新しいことをどんどんやっていきたいと考えている。

（構成員）　図書館の方で来館の工夫をされると言われたが、具体的にどういった工夫を考えているのか。

（応募団体）　ホームページ、紙はもちろん、地元の新聞に記事を出してもらうなど、いろんな形で広報をし、まず図書館を知っていただくということから始めている。そして、例えば学校であったり、商店街とかであったり、我々が外に出て行って、そこから図書館にまた来ていただくという流れを作りたい。

（構成員）　ホールの自主事業で、黒崎としての特色と言われたが、どちらかというと音楽事業が多い。それはホールの機構とかの関係で、音楽事業の方がより展開しやすいのか。

（応募団体）　特段そういうわけではない。市とも協議して、だんだん演劇やミュージカル的なものも実施したし、講演会など、いろんなことにチャレンジしている。

（構成員）　プライバシーマークを取得しているということで、ある程度安心しているところではあるが、昨今のサイバー攻撃などもあり、個人情報を守るための対策について考えを聞きたい。

（応募団体）　図書館においては、基本的には個人情報をネットワーク上に保管するということはないので、そこから市民の皆様の情報が外に出てしまう、あるいは社内の情報が漏れてしまうということはない仕組みになっている。
　ホールは、利用者の情報がクラウド上のシステムに入っているが、信頼性のある事業者に委託をしている。チケットシステムは弊社独自のものを使っているが、先日のＰＨＰ問題の際も迅速に改修ができた。

〇構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

（構成員）　それぞれの団体が強みを活かして運営に当たっているなと思ったが、提案書や今日のプレゼンからも、共同体としてちょっとちぐはぐな感じがして、そこがもうちょっと活かしきれたらいいと思った。

（構成員）　文化ホールと図書館とを一体で実施しているということで、そのことによって新たな事業や、それぞれに膨らみができたりしているというのは、実際利用して感じているので、全体的に高めの点数にした。

（構成員）　指定管理者として問題ないと考えるが、連携がどうなのだろうかという印象を持った。積極的に連携して、共同体としていい組織運営ができればいいのにという印象はあった。ただ、一つ一つの項目を見ていくと、比較的高い得点になった。

（構成員）　指定管理者として依頼するに十分な実力、経験を有していると思

った。十分実績があって、かつ組織として全国で同様の事業をしていて、経験も豊富にあるという点で、大変安心感がある。
　また、これまでの運営において両施設とも継続的な改善が図られていて、特にホールに関しては今後もいろんなことをやっていこうというような積極的な姿勢、楽しんでそれを進めていきたいという、そういう前向きな姿勢を感じたという点がとても良かったと思った。

（構成員）　連携については、せっかく隣同士なので、広報もうまく活用できればと思った。最近いろいろ黒崎も賑わっているが、商店街が少し寂しいので、そことの連携もうまくできればいいのではないかと思う。
　図書館館長の、足を使って広報をして回るという発言に一番感銘を受けた。

〇審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

（構成員）　この事業のために結成されている組織であり、実績も含めて問題ないと思う。

（構成員）　ビジョンに沿った内容だが、安定的な人材基盤や財政基盤に具体的な記載があまりなかった。

（構成員）　同様の業務の実績もしっかりあり、責任分担も明確で、熱意や意欲も見られた。

〇審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

（構成員）　幅広い連携を想定していたり、障害のある人の対応がきちんと書いてあったり、ホールでは利用後のアフターフォローとか見学の受け入れ、企画についての相談など、いろいろな支援もされている点を評価した。

（構成員）　図書館は、集客を目指して図書館の枠を超えた企画をして、図書の貸し出しにつなげられるような取り組みを評価した。

（構成員）　各構成員の評価を見ても、それほどばらついているという印象はなく、この審査結果は妥当だと思う。

〇審査項目「効率性」ついて協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

（構成員）　収支計画に関しては、どちらも実績ベースという面においては、無理な計画にはなっていないと思われる。効率的にコスト削減する余地があるかは提案書からは分からないが、これまでの実績に基づく、妥当性のある計画だろうと判断した。

（構成員）　特に積極的な削減とか経費効率性といったアプローチが見られないというところで、基準的な評価レベルとした。

（構成員）　きちんとしているが、特記的なものがなかった。

（構成員）　先ほどのシナジー効果というか、一緒に事業をすることのメリットとして、いわゆる収益シナジーとコストシナジーがあり、コストシナジーという点で言うと、例えば、両者が管理を一緒にして共同でコスト削減する、研修はまとめて行うなどがあるが、全国で展開している事業者が、八幡だけ別に研修をするとなると、かえって余分なコストがかかってくることもあるので、ぜひそうしてくださいとは言えないと思う。

○審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

（構成員）　平等利用に関しては、やるべきことはやっているということで、標準的な評価とした。

（構成員）　個人情報保護に関して、ＰＨＰの対応だとか、何か事が起こった時の緊急対策本部の開設に至るまでの動きだとかを聞きたかったが、あまり言及がなかった。昨今のＡＩ発展によるサイバー攻撃対策について、あまり考えられていないのではないかという不安が残った。ただ、研修についてはしっかり取り込まれているところは感心した。

（構成員）　管理運営体制で、共同体としてのメリットをもう少し活かせないかと思った。それぞれの団体が強みを活かして運営に当たっているが、互いに良いところを吸収して、ブラッシュアップできたらすごく共同体としてのメリットが上がっていくと思った。

○事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

（構成員）　指定管理者として十分な実力、経験を有していると考える。

（構成員）　前向きな姿勢、熱意や意欲も感じられる。

（構成員）　施設周辺は市民が集いやすい場所になってきていると感じ、すごく地域に根差して活動しているが、更に地域との連携を深めて欲しい。

（構成員）　文化ホールと図書館とが一体で管理運営されていることで、新たな事業ができている一方で、共同事業体のメリットを活かしきれていない面も感じられるため、積極的に連携して、組織運営をして欲しい。

○以上の意見交換を行った後、検討会を終了した。